

(様式1)

校 種	小 中	学校番号	6 2	学校名	宇都宮市立上河内中央小学校
-----	-----	------	-----	-----	---------------

令和3年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標（具体的な児童像）

- ・よく考え、学ぶ子ども（かしこく）
- ・自分をみつめ、つくせる子ども（やさしく）
- ・明るく、たくましい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念

「地域に愛され信頼される学校」を目指し、

- ・児童にとっては、毎日の活動を楽しみにし、「できる」「分かる」喜びが感じられ、自他を大切にす
る学校、
- ・保護者にとっては、安心して子どもを通わせ、家庭の役割を自覚して共に力を合わせることで
きる学校、
- ・地域住民にとっては、学校の取組を理解し目標を共有しながら積極的に連携・協働できる学校、
- ・教職員にとっては、教育への情熱をもってチームとして組織的に取り組み、ワークライフバラン
スを図りながら指導力向上に努める学校、となるよう経営を行う。

3 学校経営の方針

- ・教育目標の実現を目指し、全教職員が同じ方向に向かって取り組む体制づくりに努める。
- ・教職員一人一人がチームの一員としての自覚を持ち、自分の能力を発揮するとともに、お互いに助
け合い、励まし合い、教え合って成長し合う体制づくりに努める。
- ・教職員が児童一人一人のよさや可能性を認識し、児童同士が認め合い、学び合い、高め合う集団づ
くり努める。
- ・児童が「分かる・できる」ようになった実感を持ち、学ぶ喜びを感じることができるよう、不断の
授業改善に努めるとともに、学習習慣の形成を図る。
- ・豊かな心とともに、自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教
育活動を推進する。
- ・校内の組織的な体制の整備、家庭との連携及び関係機関との連携により、多様な児童の状況に応じ
た指導・支援を充実する。
- ・業務の内容や量の見直しを図り、勤務時間を意識した働き方を進め、教職員のワークライフバラン
スの調和を推進する。
- ・「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実さ
せ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

「上河内地域学校園教育ビジョン」

かしこくたくましいゆずっ子の育成

—基礎を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう—

4 教育課程編成の方針

法令等に基づくとともに、「栃木県教育振興基本計画 2025」、「第2次宇都宮市学校教育推進計画」など県・市の方針に加え本校児童・地域の実情や地域協議会の意見を踏まえて教育課程を編成する。

さらに、教科横断的な視点に立った資質・能力育成のため、各教科等の学習活動や扱う学習対象の共通点を明らかにし、単元等を関連付けて配列するよう努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

- ・全教職員が、教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」の実現のために、同じ方向に向かって取り組むチームづくり
- ・教職員一人一人がチームの一員としての自覚を持ち、自分の能力を発揮するとともに、お互いに助け合い、励まし合い、教え合って成長し合うチームづくり

○校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上

- ・地域の教育資源等を積極的に活用した地域とともにある学校づくりの推進
- ・業務の内容や量の見直しによる、教職員一人一人の勤務時間の意識化とワークライフバランスの調和の推進

（2）学習指導

①主体的・対話的で深い学びを実現する授業研究

- ・上央小授業スタンダードの実践による授業実践（一人一授業）

②基礎・基本の確実な習得（漢字・計算）

- ・担任と学力向上指導員、かがやき指導員等との連携による、基礎・基本の定着を目指した効果的な学習指導の実践（授業・朝の学習・休み時間）
- ・上央小漢字検定・算数検定の活用（授業、朝の学習、休み時間等の活用により、全員の合格を目指す。）

○家庭学習の習慣化促進（基礎・基本の定着につながる内容の工夫）

③読書習慣の定着を図る取組の推進（週に一人一冊以上）

（3）児童生徒指導

①進んであいさつする児童の育成

- ・校内の廊下（教職員、来校者）や地域（ボランティア）でのあいさつ推進
- ・児童会を活用したあいさつ励行の推進

②児童のよさを認め励ます教育の推進による自信や自己有用感の醸成

- ・児童同士及び先生からの誉め言葉（全員が対象となるように）

○いじめを許さない規範意識や正義感、思いやりの心の育成

- ・スマホ使用のルール徹底など情報活用能力の育成

③不登校児童等、多様な児童に対する保護者や関係機関と連携した組織的対応の充実

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

①体力

- ・運動量の確保・運動技能の向上を意図した体育授業の実践
 - ・運動の日常化の推進
（各種運動検定の活用，各種運動強化月間の実施，ミニマム達成率の向上を目指した取組）
 - ・学校行事等を活用した体と心のたくましさの涵養
- 投力や持久力などの体力向上及び姿勢の指導徹底

②保健

- ・自ら感染症対策に取り組む児童の育成
- ・健康指導の推進（学校伝染病や熱中症予防対策の充実）

③食育

- 食に関する指導の充実（バランスのとれた食事など望ましい食習慣の形成）

④安全

- ・登下校時の安全指導の徹底

6 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※ 様式2～4 参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力（地域学校園内で共通するものは，文頭に○）

- ・地域と連携した活動の充実による郷土を愛する心の醸成
- ・自主的に考え行動する力や折れない心，粘り強くやり抜く心の育成
- ・思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度の育成

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

○地域の教育資源等の積極的活用

- ・農業体験【学校行事】，伝統行事（ぼうじぼ）【総合的な学習の時間】等における人材活用
 - ・地域の自然とのふれあい活動（羽黒山遠足【学校行事】，地域の公園等での体験活動【生活科】）
- ◇体験を振り返る活動や地域のよさを知る活動（作文等での表現活動【国語】，ふるさとカルタ取り大会【学校行事】）

○縦割り班「にこにこ班」の効果的活用

- ・学校行事における積極的活用（羽黒山遠足，農業体験，運動会，1年生お迎えの会等）
 - ・清掃活動における日常的活用
- ◇いじめゼロ集会での標語作成

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

地域の伝統・文化，自然，施設等を生かすとともに地域で働く人の生き方に触れる教育活動を充実させるため，地域協議会に学校運営に関する基本的な方針を説明し，意見を踏まえながら連携・協働した取組を充実させる。

②主な取組

- ・伝統行事「ぼうじぼ作り」実施
- ・羽黒山遠足の安全確保に係る支援
- ・田植え・稲刈り等の農業体験に係る支援
- ・持久走大会に係る支援
- ・「親学」に係る連携・協働

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園において、学力向上や特別支援教育が喫緊の課題であることから、部会を中心とした組織体制を構築し、指導の連続性・系統性を図った取組を一層充実させる。

②主な取組

- ・学力向上部会など各部会での取組推進
- ・「学力向上アクション6プラン」に基づく小中一貫教育カリキュラムの一層の充実
- ・各種学力調査の分析等に基づく各教科の課題の見直し及び共通実践の推進
- ・うつのみやマネジメントシステム「全体アンケート」に基づく地域学校園内の共通実践推進
- ・不登校やスマホ使用の現状等に係る情報交換及び各小中学校での指導事項検討

(3) 不登校対策

①基本的考え

温かい雰囲気学の学級づくりを基盤とし、不登校の兆しが見られる児童の情報を共有しながら早期より組織的に対応する。また、児童の状況に合わせて別室登校支援を積極的に行う。

②主な取組

- ・あいさつ、称賛、励まし等の言葉かけや一人一人のよさを認める温かい学級づくり
- ・校内ケース会議の迅速な開催とチームによる支援体制の構築
- ・校内別室登校支援充実（副校長・担任・養護教諭を核とする担当者、場所、支援計画の明確化）
- ・保護者の心情を踏まえ目標を共有した積極的支援

(4) G I G Aスクール構想

①基本的考え

I C T等を効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の進展など、急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を身に付けさせる。

②主な取組

- ・1人1台端末を文具の一つとして授業はもとより、家庭学習等で日常的に活用できるようにする。

(5) 宇都宮学

①基本的考え

「宇都宮学」の学習を通して、児童が郷土への愛情と誇りをもてるよう指導の充実を図る。

②主な取組

- ・伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動
- ・郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土等について理解する学習